

# I 環境科学研究科の活動の概要

# 環境科学研究科の昭和63年度活動

石塚皓造\*

## 1. 研究科の運営

### (1) 運営方針

本研究科は1専攻制を維持しつつ広い分野にわたる学際的カリキュラムを提供して、環境科学全般にわたる問題把握の能力の涵養に努め、併せて専門分野について高度の問題解決能力を養成することを目指してきた。そこで本年度は従来の運営方針を踏襲する中で特に以下の5項目に留意することとした。(1)昭和62年に大巾に改訂したカリキュラムの徹底、確立を期す。研究科内各分野の専門水準の向上をはかることを目的としている。(2)修論指導体制の整備をはかり、関連して入試方法の改善を行う。関係教官の教育指導上の責任と主体性を確立することを目指す。(3)環境科学の総合性を学習するシステムと有職者受け入れの体制を整備する。(4)環境科学関係博士課程の設立の可能性を探索する。環境科学の専門性を高め、本研究科の後継者の育成を目指す。(5)教官・院生の国際的活動を盛んにし、一方外国人留学生の受け入れについて配慮する。

### (2) 運営組織

本研究科の運営は教員会議により行われることを基本とする。研究科長を議長として、本研究科の授業を担当する講師以上の教員で教員会議構成員と認められた教員により組織される。本年度の構成員は表-1に示す54名である。本研究科は1専攻制であるので、研究科の運営は全構成員の参加による教員会議で全て決められる。毎月第3水曜日に開催し、8月を除き計11回開催した。この他、入学試験(10月)の合否判定の為の臨時会議を1回開催した。

教員会議とは別に、研究科長を議長とする教授間協議会を開催し、人事その他研究科の運営に関する重要事項について意見を交換した。毎月第2火曜日に開催し、計11回行った。

### (3) 研究科内各種委員会

教員会議の中に各種委員会を設置し、運営業務の分担を行った。カリキュラム委員会、就職委員会、編集委員会、運営委員会は従来の活動を踏襲し発展させた。入試委員会は新しい入試改革案に基づき10月期入試を実施した。教育指導体制検討委員会を新たに設置し、修論指導体制の見直しから始まった入試方法の改革案を作成した。又同委員会はカリキュラムに環境科学の総合性に関する教育を盛り込む為のコースマスター制の検討提案をまとめた。

各委員会委員名を表-2～7に示す。

---

\*昭和63年度研究科長

表-1 研究科教員会議構成員

	氏名	所属学系		氏名	所属学系
教授	石塚皓造	応用生物化学系	助教授	小泉允園	社会工学系
教授	岩城英夫	生物化学系	助教授	国府田悦男	応用生物化学系
教授	大羽裕樹	応用生物化学系	助教授	佐藤俊平	歴史・人類学系
教授	梶秀樹	社会工学系	助教授	佐藤洋平	社会工学系
教授	川手昭二	社会工学系	助教授	下藤條弘	社会医学系
教授	河村武地	地球科学系	助教授	田島學	社会工学系
教授	黒川洸社	社会工学系	助教授	田付貞洋	農林学系
教授	河野博忠	社会工学系	助教授	手塚敬裕	化学系
教授	古藤一雄	地球科学系	助教授	東照雄	応用生物化学系
教授	高野健三	生物科学系	助教授	日端康雄	社会工学系
教授	多田敦	農林工学系	助教授	前川孝昭	農林工学系
教授	谷村彦正	社会工学系	助教授	前田修次	生物科学系
教授	中村以正	応用生物化学系	助教授	松本栄次	地球科学系
教授	藤井宏一	生物科学系	助教授	森下豊昭	応用生物化学系
教授	藤伊正哉	生物科学系	助教授	安田八十五	社会工学系
教授	山口誠啓	社会医学系	講師	石田力生	社会工学系
教授	山中政武	応用生物化学系	講師	大橋守人	応用生物化学系
助教授	安仁屋高利	地球科学系	講師	小林崇隆	地球科学系
助教授	天田見賀	農林工学系	講師	齊藤泰一	社会工学系
助教授	石糸賀	農林学系	講師	佐久間一紀	農林工学系
助教授	岩崎駿介	社会工学系	講師	関田則雄	化学系
助教授	白井健二	社会工学系	講師	田中久	地球科学系
助教授	及川武久	応用生物化学系	講師	村島繁宏	農林学系
助教授	北畠能房	生物科学系	講師	久松博	応用生物化学系
助教授	熊谷良雄	社会工学系	講師	吉川博也	応用生物化学系

(議長 石塚皓造)

表-2 カリキュラム委員会

委員長	梶秀樹
(9月より)	藤井宏一
委員	田瀬則雄
〃	多田敦
〃	国府田悦男
〃	安田八十五
〃	天田高白

表-3 入試委員会

委員長	前田修
委員	安仁屋政武
〃	田付貞洋
〃	国府田悦男
〃	吉川博也
〃	日端康雄

表-4 編集委員会

委員長	黒川洸	守三
委員	小林健	三二
〃	高野健	弘
〃	白井信	房
〃	下條信	人
〃	北島能	
〃	齊木崇	

表-5 就職委員会

委員長	古藤田	一雄
委員	岩城	英夫
〃	森下	豊昭
〃	中村	以正
〃	吉川	博也
〃	熊谷	良雄

表-6 運営委員会

委員長	石塚	皓造
委員	松本	栄次
(会計)	田瀬	則雄
〃	及川	武久
〃	松本	宏
〃	下條	信弘
〃	鶴野	公郎
〃	佐藤	洋平

表-7 教育指導体制検討委員会

委員長	藤井	宏一
委員	前田	修
〃	安仁屋	政武
〃	田瀬	則雄
〃	大羽	裕
〃	中村	徹
〃	河野	博忠

以上の他、研究科長代理として河村武教授、修士課程委員会委員として山中啓教授、入試実施委員として河野博忠教授が担当した。また、各分野世話人を設置した(表-8)。

表-8 分野世話人

自然環境	河村	武
生物環境	岩城	英夫
生産環境	大羽	裕
環境改善	中村	以正
環境政策	河野	博忠
環境計画	梶	秀樹
(9月より)	黒川	洗

## 2. 教職員の異動

山中啓教授(応用生物化学系)が平成元年3月31日をもって定員退官、田付貞洋助教授(農林学系)が東京大学に転出(平成元年4月1日付)、大橋力講師(応用生物化学系)が放送教育開発センターに転出(平成元年4月1日付)、阿部治講師が埼玉大学に転出(昭和63年6月1日付)した。また梶秀樹教授が昭和63年9月1日より1年間国連地域開発センターに出向した。

本年度より前川孝昭助教授(農林工学系)、東照雄助教授(応用生物化学系)、石見利勝助教授(社会工学系)、白井健二助教授(応用生物化学系)、齊木崇人講師(社会工学系)、中村徹講師(農林学系)、松本宏講師(応用生物化学系)が新たに教員会議構成員となった。

外国人教師として韓国より権源庸氏(国土開発研究院主任研究員)が昭和63年8月1日より1年間の予定にて着任した。

研究技官の田村憲司氏が神戸大学に転出(昭和63年10月1日付)、朴恵淑技官が退官(昭和63年7月末日付)、松村有二技官が平成元年3月1日付で社会工学系に助手として配置換の後産業能率大学に転出(同年4月1日付)した。

### 3. 入学及び修了の状況

63年度入学者は98名であり、外国人留学生は5名、有職者は9名であった。平成元年3月課程修了者は80名であり、昭和63年7月修了者は1名であった。

### 4. 研究科プロジェクト

前年度に引き続き、本年度も研究科プロジェクトを推進した。継続3件、新規4件であった。

昭和63年度 環境科学研究科プロジェクト研究計画一覧

研 究 課 題	研究組織	配分額 (万円)	備 考
霞ヶ浦と人間：資料からみた茨城の過去と現在(継続)	前田* 天田, 糸賀 田瀬, 安田	40	61年度120万円 62年度65万円
白神山地ブナ原生林での林道建設計画をめぐる環境科学的基礎研究(継続)	安仁屋* 中村(徹), 糸賀 北島	40	61年度80万円 62年度80万円
環境情報ディスプレイ装置を利用した教育システム(継続)	鶴野* 吉川, 石田 田瀬	60	62年度100万円
環境科学における研究・教育の体系化(新規)	岩城* 石塚, 梶, 河村 河野, 藤井, 山中	80	
閉鎖水系環境改善手法の研究～霞ヶ浦を例として～(新規)	中村(以)* 藤木, 河野 国府田, 松村	80	
アジアにおける都市居住環境改善に内在する社会システム(新規)	石見* 岩崎, 権 日端	80	
熱帯の問題土地帯における植生回復に関する環境化学的アプローチ(新規)	久島* 石塚, 白井 大羽	80	

\*代表者

### 5. 国立大学環境科学関連大学院研究科長会議の開催

第11回会議を昭和63年7月19日～20日日本学において開催した。北海道大学, 東京工業大学, 神戸大学, 広島大学より参加があり, 環境科学の研究教育上の問題点, 大学院後期のあり方, 環境科学会への対応と5大学合同発表会などについて討議を行った。霞ヶ浦汚染の実況を視察した。

### 6. 教官の海外出張・研修旅行

表10に示す。

表-10 教官の海外出張・研修旅行

氏名	学系	出張期間	渡航目的	出張先
大橋 力	応用生物化学系	S.63. 5.11～ 5.21	音環境の収集の現地調査	ソ連邦グルジア共和国
小林 守	地球科学系	S.63. 4.19～ 4.24	気候環境調査	大韓民国
河村 武	地球科学系	S.63. 4.21～ 4.25	気候環境調査	大韓民国
黒川 洸	社会工学系	S.63. 5.11～ 5.22	国際住宅都市計画連合ハーグ大会出席	オランダ王国
鶴野 公郎	社会工学系	S.63. 5.28～ 6.12	主要国の経済動向及び通商政策の調査	スイス連邦、連合王国 フランス、アメリカ合衆国
石見 利勝	社会工学系	S.63. 6. 8～ 6.21		タイ王国
吉川 博也	社会工学系	S.63. 6.25～ 7. 2		フィリピン共和国
藤井 宏一	生物科学系	S.63. 7. 3～ 7.10		カナダ
佐藤 俊	歴史人類学系	S.63. 7.15～12.11		ケニア共和国
日端 康雄	社会工学系	S.63. 7.19～ 7.31	研究交流のため	連合王国
森下 豊昭	応用生物化学系	S.63. 7.27～ 8.24	農業技術の視察	インド、ポーランド
山中 啓	応用生物化学系	S.63. 8.19～ 8.29	私事	アメリカ合衆国
山中 啓	応用生物化学系	S.63. 9. 3～ 9.12	シンポジウム参加	オランダ王国
石田 東生	社会工学系	S.63. 8. 8～ 9. 3	経済インフラの調査	グアテマラ
久島 繁	応用生物化学系	S.63. 7.23～ 8.24	共同研究推進のため	マレーシア、シンガポール
谷村 秀彦	社会工学系	S.63. 7.19～ 8. 8	観光	カナダ
大橋 力	応用生物化学系	S.63. 8.19～ 9. 4	私事	インドネシア
岩城 英夫	生物科学系	S.63. 8.22～ 9. 5	私事	ポルトガル、スペイン
黒川 洸	社会工学系	S.63. 9.14～ 9.18	セミナー出席	マレーシア
小泉 允罔	社会工学系	S.63. 8.28～ 9. 7	都市施設計画に関する研究	大韓民国
久島 繁	応用生物化学系	S.63. 9.17～10. 1	シンポジウム出席	タイ王国
山口 誠哉	社会医学系	S.63.10.11～10.16	WHO会議出席	スイス連邦
熊谷 良雄	社会医学系	S.63.10.24～11. 9	居住問題の実状調査	ブラジル、アルゼンチン
石塚 皓造	応用生物化学系	S.63.12. 5～12.11	日本学術振興会論博支援事業による研究指導	タイ国
石田 東生	社会工学系	S.63.11. 6～12. 4	中米3ヶ国の経済インフラに関する調査	アメリカ合衆国他
石見 利勝	社会工学系	S.63.11. 6～12. 5	途上国の住宅政策の研究・調査	インドネシア共和国
久島 繁	応用生物化学系	S.63.11.26～12.17	国際シンポジウム出席及び研究	マレーシア
山口 誠哉	社会医学系	S.63.11.15～11.23	アジア労働衛生会議出席	インド
山口 誠哉	社会医学系	S.63.12.10～12.18	会議出席	アメリカ合衆国
黒川 洸	社会工学系	S.63.11.30～12. 4	国際住宅都市計画会議出席	アイルランド他

氏名	学系	出張期間	渡航目的	出張先
黒川 洸	社会工学系	S.63.12.10~12.18	東南アジアの都市整備に関する調査研究	アイルランド他
大橋 力	応用生物化学系	S.63.12.31~ H. 1. 7	音環境の現地収集	インドネシア共和国
吉川 博也	社会工学系	H. 1. 1.24~ 1.28	国境型貿易に関する調査	中華人民共和国
吉川 博也	社会工学系	H. 1. 1.15~ 1.19	国境型貿易に関する調査	中華民国
斉木 崇人	社会工学系	H. 1. 2.28~ 8.31		スイス連邦
糸賀 黎	農林学系	H. 1. 2.28~ 3.12		韓国
及川 武久	生物科学系	H. 1. 2.27~ 3.13		西ドイツ, アメリカ合衆国
岩崎 駿介	社会工学系	H. 1. 2.18~ 3.15		タイ, ラオス
鶴野 公郎	社会工学系	H. 1. 2.16~ 2.20		フィンランド
鶴野 公郎	社会工学系	H. 1. 3. 1~ 5. 1	国際高等システム研究所にて調査研究	オーストラリア
田島 學	社会工学系	H. 1. 3.16~ 4. 7		イタリア共和国
高野 健三	生物科学系	H. 1. 3.22~ 4. 2		フランス